

令和 8 年度 第 1 回岡山県健康の森学園支援学校 学校運営協議会【議事録】

令和 8 年 5 月 25 日(月)10:00~11:50 会議研修室

進行:大倉副校長

記録:鈴木

1. 校長挨拶(宮木校長)

地域の支援により新年度を円滑に始動できたことへの謝辞と、他校の不祥事を受けた教職員の綱紀粛正についての報告があった。本日は今年度の経営方針を説明し、「地域と共にある学校づくり」を推進するため、委員の専門的・地域的視点から忌憚のない意見を求め、実りある協議にしたいとの挨拶がなされた。

2. 委員・学校職員紹介

- ・ 自己紹介(田邊(眞)委員、宮崎委員、山田委員、若林委員 4 名欠席)

3. 本校学校運営協議会会長、副会長の承認

- ・ 本部より会長に岡本委員、副会長に名越委員、宮木校長を推薦の提案 → 委員より承認

(岡本会長挨拶)

回を重ねるごとに本校の環境整備が進んでいることへの評価が述べられるとともに、ボランティアとして来校した大学生が本校の教育環境に感銘を受け、特別支援学校の教員を志すに至った事例が紹介された。その上で、今後も充実した教育活動を展開できるよう、委員各位に対し専門的・地域的な視点から忌憚のない意見を求める旨の挨拶がなされた。

4. 学校経営に係る基本方針等について(校長)

人権尊重と個に応じた教育、教職員の専門性向上、自立支援に向けた関係機関との連携を柱とする学校経営方針が示された。広大な自然や寄宿舎での 24 時間教育等の特色を活かした「オンリーワン教育」を推進し、福祉・農業との連携や新商品開発に引き続き注力する。今後の重点取組として、生成 AI 活用の研究や新見地域との連携強化、魅力的な情報発信、働き方改革を推進するとともに、生徒数 60 名前後の維持を目指し、県南での説明会開催等の募集活動も展開していくとの説明がなされた。

5. 校内見学(③グループに分かれて見学)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1グループ【岡本、田邊(由)、福田】 | 案内:鈴木、河野、榊原 |
| 2グループ【赤木、松原、吉尾】 | 案内:山崎、杉山、上田 |
| 3グループ【田中、野條、名越】 | 案内:田野、金久、大倉 |

6. 協議及び意見交換

①働き方改革について

(榊原指導教諭)水やりや清掃等の業務を事務室(補助員)へ移管した。また、資料のペーパーレス化

や生成 AI の活用による効率化を進めている。

(田中委員)全業務を「専門性の要不要」でリスト化し、誰でもできる仕事は外部人材(パート等)に委託すべきである。また、自身が発行するフリーペーパー「にいみいろ」の広告枠を無償提供したい。

(田野高教務)外部ボランティアの協力は現状、個人のつながりに頼る面があるが、地域連携室の活用を教員間でも共有したい。

(山崎主幹教諭)地域連携室が窓口となり、チラシや「人材バンク」登録者を通じてボランティアを確保している。

(岡本会長)大学のインターンを受け入れることで、学生の学びと教員の負担軽減の両立を図りたい。

(田邊(由)委員)働き方改革の観点から、有志による活動も業務過多にならないよう、実施する事業を精査・選択することが重要である。

②学校経営方針および学校見学を受けて

(上田事務部長)6月からビオトープ設置などの緑化事業を開始するが、東屋(あずまや)の建設が課題となっている。

(山崎主幹教諭)ビオトープに使用する石や丸太などの資材提供について、地域の協力を仰ぎたい。

(吉尾委員)地場産業で協力可能な企業がある。地域連携室委員として、知り合いへ声をかけるなど力になりたい。

(福田委員)将来の就労を見据えた訓練や、個々の特性を最大限に引き出す支援体制に感銘を受けた。

(松原委員)通常校の教員も、本校の丁寧な支援体制をもっと早く知るべきだと感じた。

(岡本会長)教員の人事交流やセンター的機能を活用し、本校の教育をより広く発信すべきである。

7. 諸連絡

(大倉副校長より)

校内ルール(資料p4)、いじめ防止基本方針並びに年間計画(p5～)、学校運営協議会の設置等に関する規則(p7～9)、行事予定(p10)を説明。

今後の学校運営協議会の予定

第2回学校運営協議会 令和8年10月26日(月)10:00～

第3回学校運営協議会 令和9年2月8日(月)10:00～

8. 閉会挨拶(名越副会長)

PTA 会長 3 年目を迎え、昨年度の PTA 改革を通じて教職員と保護者双方の負担軽減を推進している現状が述べられた。教員の負担増による余裕の喪失は、かつて疲弊していた保護者の姿と重なるものであり、教員が笑顔でいられる環境の重要性が強調された。また、本校の教育支援により家庭環境が穏やかになり、子どもの成長を実感できていることへの謝辞が述べられるとともに、保護者だけでは困難な「社会への自立」に向け、今後も本協議会、並びに教職員や地域の継続的な支援を求める旨の挨拶がなされた。